

## 【こばと保育園】

先生①②:よろしくお願ひします。

スタッフ①:素敵ならーニングストーリーを、ありがとうございました。

先生①:どういたしまして。でも、これが合っているのかどうかは分かりません。

先生③:大丈夫でしょうか？

スタッフ①:

別に正解というのはないんです。それより、遊木の森で体験していただいたあと、いつもの公園などにも行ってくださったんですね。そのことも書いていただきまして、ありがとうございます。

因みに、ここにある公園というのは、どこですか？よく行かれるところなののでしょうか？

先生①:清水山公園の上の谷津山です。

先生③:本当に遊ぶための遊具も何もないところです。

スタッフ①:

遊具のない広場になっているところということで、ありがとうございます。普段そこへ行くと、どのような遊びが展開されるんですか？

先生①:

いつもは下の遊具のあるところだったんですけども、今回はそこへ初めて行きました。

スタッフ①:

あえてそういうところに行ってくださいということですか？嬉しいです。

先生①:年長組も一緒に…。

先生③:行ってもらいました。

スタッフ①:

なるほど、初めて遊具のないところに行っていたら、ここに書かれているようなことがいろいろあった訳ですね。ありがとうございます。

では、そうした遊具のないところに行ってみようと思われたきっかけとしては遊木の森での体験が大きかったかと思いますが、他に何か決め手となったことはありましたか？

先生③:決め手ですか？

スタッフ①:どのようなプロセスがあって、「そこに行ってみよう！」となったんですか？

先生③:

やはり同じような体験が出来るような場所ということで、葉っぱだけの中でまた、遊木の

森のことを思い出して遊ぶことができるのかなあなどと思いました。

先生②:

今回は、この年次の子たちだけではなく、年長組と一緒に行ってくださいよ。

スタッフ①:

そうなんですね。いつもの遊具のあるところと、遊具のないところに行ったときの違いというのは何かありましたか？

先生③:

やはり自分たちで自然物を使った遊びを見つけるという良さはあるかと思いました。

スタッフ①:

ありがとうございます。それはもしかすると、元々子どもたちがそういう力を持っていたのにも関わらず、そういったところへあまり行かなかったということもあるのでしょうか？

先生①: 今度から…。

先生③: 行きますか？

先生①:

誰かが付いて行ってくれれば行ける子たちなんですけれども、先生 3 人だと少し大変なので行けないですね。だから、公園などには行きますよ。

先生③:

その年度の子どもたちによってすごく差があるんです。ほかの年次の子たちがいつも行っている場所なんですよ。ただ、今年度の子たちの場合、3 人だけではみんなと一緒に連れて行けません。もう少しお手伝いしてくれる人がいないと行けない子どもたちなんです。

スタッフ①:

そこで遊具などがないと遊べないということですか？いろいろ分からないことがあって、すみません。

先生①:

たぶん、そんなことはないと思いますよ。実際、公園へ行けば、石で遊んでいる子もいますし、棒を使って落ち葉で遊んでいる子もいます。ただ、そこまで行く過程と道のりですね。

先生③:

山登りの際に転んでしまうといったこともありますね。

先生①:

それもあります。

スタッフ①:

階段があるなどの物理的な距離感があって、またすぐにそこへ行ってみようとはならないということですか。いつも行く人数や子どもたちの体力的な問題、それに距離や障害物で

すね？

先生①:

そんな感じですね。

先生③:

そういったことが得意な年代もあるんですけども、今年の2歳児は少々難しいということです。たとえば、12月で未熟な子たちが多いと、どうしても途中で疲れたりしてしまつて行くのが大変ですから、今まで行けなかったというのがあります。

スタッフ①:

今年度も後半になって、もうだいが成長してきたので、「ちょっと行ってみようか」というのがあったということですか？

先生③:

年長組にも手伝ってもらって、「ちょっと行ってみようか」という感じですね。

スタッフ①:

園庭などでもやはり、何か遊び道具がある方が子どもたちは遊びやすい訳ですか？

先生①:

それは個々によって違いますよね。

スタッフ①:

そうですね、何か興味などがあれば…。

先生①:

遊具だけで遊ぶ子たちではありません。三輪車で遊ぶ子もいれば、水を触ったりする子もいますし、本当に走って楽しんでいる子もいます。

スタッフ①:

だから、「これからも積み重ねていけば…」というようなことが書いてありますが、今回は全員がいつもの遊び道具などのない自然の中に行ったら、それぞれそれなりに遊びを見つけて遊んでいたということでしょうか？

先生③:

経験が成長させていくでしょうから、何度か行っているうちにまた新しい遊びに発展していくのかなとは思いますが。

スタッフ①:

そうですね。ところで、何かブロックで建てる遊びがあるということですが、それはどのような感じのものなんですか？

先生①:

いつもならおうちなどを建てるんですけども、長く繋いだので、蛇かなと思ったんですね。そうしたら、釣り竿らしくて、「ここまで長く繋げられるようになったんだ！」と思いました。元々子どもたちはみんな、上手なんですよ。

スタッフ①:

そうですね、子どもたちは得意ですね。

先生①:

何かを並べるのも元々上手なんですけれども、違うおもちゃでも何となく自分が思った感じのものや、保育士が思い付かないような発想が出来るようになったので、「ううん…」というのはあります。

スタッフ①:

やはり保育園で遊んでいると、自然だけではなく、このようなおもちゃや、いろいろな知育玩具が一杯あると思うんですね。ただ、私たちとしては、子どもたちの想像力や主体性を養うのに自然というものが有効的なのではないかと思ってやっています。先生方から見るとどうでしょうか、何か違いがありますか？それとも、そんなに変わらないですか？

先生①:

これが何回かあって積み重ねていけば、変わったなというのも分かると思うんですけども、まだ1回だけでは分からないですね。

先生③:

まだ、知育玩具などの遊びと自然の中での遊びには、それぞれの良さがあると思います。

先生①:

何となく自然が苦手だった子も遊べたのには、私たちも少々ビックリしましたが、この子たちが目に見えて変わったというのは、1回では分かりません。

スタッフ①:

なるほど、少し距離が近付いたかなという感じですか？

先生①:

積み重ねていかないと分からないかもしれないですね。

スタッフ①:

それは、今回行ってくださったあの場所まで行かないと積み重ねられないものなのでしょうか？

先生①:そんなことはないですよ。

先生③:今でも…。

先生①:近場の城東エリアにも自然の公園はありますので…。

先生③:神社などにも行きますし…。

先生①:どんぐり拾いに行きます。

スタッフ①:

そうしたところで少しずついろいろな積み重ねられるといいですね。

遊木の森で私たちと一緒に自然遊びをしてみて、先生方ご自身が、少し見方が変わったり普通の保育に繋がるようなことは何かありましたか？

先生③:子どもに対してですか？

スタッフ①:そうですね。

先生③:「声が聞こえるかな？」などと、声掛けされていたのを真似てみたりはしました。

先生①:音ですね。

先生③:

鳥の声などとおっしゃっていましたが、外に行ったときには、この辺りは普段、車だらけなんですけれども、少し静かなところで一旦、「何か聞こえる？」と言ってみたりはしています。

あと、赤い葉っぱは危ないということを自分たちも知ることが出来たので、「これも赤い葉っぱかなあ？だとすると、危ないのかなあ？分からないね」などと言いながら、上の方を見上げたりもしています。

スタッフ①:赤い葉っぱも結構いろいろあるんですよね。

先生③:知らないことが一杯あると思います。

先生②:まだ大きな成長が見られる年齢ではないと思うんですね。

スタッフ①:そうなんですか？

先生②:

成長が見られた子もいましたが、変わらなかった子や逆に駄目になってしまった子も見られました。最初に書かせていただいたように、私が見た子の中には、いろいろあって小さい虫でも駄目で、全く触れなかったのに、これを体験させていただいて触れるようになった子もいたんです。

スタッフ①:

それはすごいですね。

先生②:

そうなんですよ。でも、そのあとで行ったときにはまた、全く遊べなくなっていました。なので、やはり積み重ねていくことで克服出来るのかなとは思いますがね。

スタッフ①:何が違ったのでしょうか？

先生③:そういうところに行ったからなんですかね。

先生②:そうかもしれません。

先生③:私たちだけでなく、いろいろなスタッフがいる雰囲気ですね。

先生①:スタッフが一緒に付いてくださいましたからね。

先生②:

バスに乗って出掛けるのも、お弁当を持って出掛けるのも、何もかもが初めてでしたからね。

先生③:そういうことがあったかもしれませんね。

スタッフ①:

「今日は気分が乗っていていいよ」とか、「今日はちょっとそういう気分ではないよ」というのがありますよね。

先生③:そう、わくわくして気分が乗るということもあります。

スタッフ①:先生ご自身については何かありますか？

先生①:

自分自身では落ち葉に対しても、黄色や赤といった色や大きい小さいしか言えなかったんですけども、遊木の森に行ったら「ほら、穴が開いて見えるねえ」とか、音についての声掛けもあるというのを学びました。

スタッフ①:よく見ると結構いろいろと面白いことがあるんですよね。

先生③:ちょっと忘れ掛けてきていたことでした。

先生①:

一枚の葉っぱでそこまでしっかり出来るんだということは感じました。

スタッフ①:

何かに変身してみたり、大人が面白がっていると子どもも一緒になって面白がってくれるんですよね。あと、この積み重ねというところで 3 月に向けて何か、こんなふうに今回の遊木の森での体験を生かしていきたいということなどがあれば教えてください。

先生①:

体調や天候によりますが、出来るだけ散歩に行けたらいいなとは思っています。本当の機会を作るという訳ではありませんが、それがまず、経験を積み重ねられることではないかと思うんですよね。

スタッフ①:

ありがとうございます。

今回は遊木の森という結構自然度の高いところに来ていただいたんですけども、私たちも普段は園庭や町の公園など、本当に近くのちょっとした自然を使って園児の皆さんと遊ぶことがあるんですよ。音はどこでも聞こえますし、匂いもどこでも嗅げます。先生方はそういうのを見つける目が抜群にいいと思いますので、是非そういうところを活用してやってみていただけたら嬉しいです。

先生①:ありがとうございました。

スタッフ①:

でも、2歳児はまだ地道な積み重ねがすごく大事な年代だということを教えていただいて、本当に良かったです。私たちも勉強になりました。

先生③:

今回は初歩でしたね。体験としては一番最初の入り口という感じで、これから段々いろいろな発想なども変わってくるんだと思います。

スタッフ①:

そうですね。他に、月に一度私たちが行って、近くの公園で一緒に遊んでいる保育園があるんですけども、もう1年たつと随分違ってきます。まず保育士の先生方の見方が変わってきますので、普段の遊び方なども変わってくるんですよ。だから、積み重ねは大事です。もし何か自然遊びのことでいろいろ困ったこと等がありましたら、是非またお声掛けください。ありがとうございました。

先生①②③:ありがとうございました。